

# 保育入門 (十)

倉橋惣三

## 九、幼稚園教育の方法

### 第三、其の手段 (つづき)

#### 二、動作遊戯

幼児の精神生活を最も自發的に、最も具體的に、音聲によつて發表するものが唱歌ならば、之を身體の運動によつてするものが動作遊戯である。

元來、觀念なり情緒なりを身體的に表出する處の踊り、所作、身振りの類は、今日に於ては極めて發達したる藝術的技巧に屬するものとなつて仕舞つて居るけれども、其の原始的な性質に於ては頗る自然的自發的なものである。即ち、種々の感激に伴ふ夫々の身體的表出であつて、嬉しさに手の舞ふのも、感憤に拳を握るのも、乃至勇みて

肩を揚げ、憂ひて面を垂るゝのも、極めて自然の表出に他ならない。聲を發して歌ふよりも、或る意味に於ては一層原始的なものであるかも知れない。少くも、舞ひて歌ひ、歌ひて舞ふ、その自發性に先後のないものである。

殊に、音樂によりて促し立てられた心の自發は、到底靜的狀態に止まり得べきものではない。其の音波の一高一低につれて、手は手拍子し、足は足どりし、遂には浮き立てられて舞踊するに至るのが自然である。

其の具體性に至つては、唱歌よりも尙ほ以上である。最も眞實、最も具體なことを『身を以て』と

いふが、之れは即ち字義通り『身を以て』する生活である。只觀念として「喜び」といふよりは、聲張り上げて「うれしや」と歌ふ方が具體的であり、それよりも亦、うれしさを、手を振り足を舉げて身を以て踊る方が一層具體的である。

動作遊戯の本質を斯くの如きものとすれば、幼稚園教育の手段として、唱歌音楽と相似たる價値を有することも言はずして明かである。春の野を美しいやさしい音律に歌ふことが教育に價値ありとすれば、或は春風となり、笑ふ花となり、舞ふ蝶となり、身を以て春の野を踊るのは一層の價値を有するものとも見られる。少くも同様の價値を有するものであるに相違ない。其の相互的たる點に於て、其の情緒的基調の養成の上に於て、實に其の價値の大いなるを認めざるを得ないのである。

但し音楽唱歌の條に於て述べたると同じ注意は、此の場合に於ても必要である。すなはち、技巧よりも其の自發を尊重し、外部的の巧緻よりも、

内部的情緒の力を重んずることである。之れなければ音楽が其の生命を失ふ如く、動作遊戯も亦其の唯一の生命を失ふのである。のみならず、本來が唱歌よりも一層原始的一層自然的であるべき處よりして、一たび其の本來の性を失へば虚偽に墮するの危険の一層多いものである。空虚なる技巧を誇らんとするに至る危険の一層多いものである。すなはち實際上次の如き注意を要する。

(イ)、動作遊戯は、その動作者の受くる教育的効果を主とするのであつて、觀覽者を對象とするものではない。すなはち成るべくは幼兒全體が同時にする如きものをよしとし、若し少數者をしてなさしむる時と雖も、觀覽者を對象とする演技的興味を主とさせない様に注意しなければならぬ。

(ロ)、前述の如く、技巧を主とすべきものではないから、其の出來ばへの上手下手といふことを、能ふだけ問題外に置くようにしなければならぬ。

い。彼の往々にして、精巧なるものをして得意ならしめ、其の芝居氣をつのらしむる如きことは、深く警戒しなければならぬ。

(ハ)、無意味なる型に流れざらん爲、必ず有效なる音樂の力によつて其の根元的情緒を存せしむべきこと、殊に、濫用によつて、其の情緒の發洩たる生氣を失はしめぬ様注意することは最も必要である。

附言。幼稚園教育の手段として、音樂及び動作遊戯を考察するに當つて、茲には専ら其の第一義的本質が、如何に斯の教育の原則に適合するものであるかといふこと、此の意味に於て此の手段を用ふるに必要な注意の數條とを擧げんとするにつとめて、他の多くの問題を略したのは、それ等の諸問題が不要なりといふのではなくして、此の第一義的本質を明かにすること

が殊に重要なが故であつた。しかし、教育の實際に於て、假令ば音樂に於て音階の問題、歌詞の問題、題目撰擇の問題。動作遊戯に於て、題目選定の問題、筋肉運動上の問題、その他、十分綿密なる研究を要すべきことは、甚だ尠くないのである。すべて教育の手段は、其の根本の意義を明かにすること、共に、末端的些細なる如き點にも深き注意を缺いては、到底教育的なりと言得ないのである。たゞし、如何に末端的注意に精なりと雖も、根本の第一義を明かにせず、之れを誤り或は失する如きことがあつたら、其の弊は一層大なりと言はざるを得ないのである。幼稚園教育の手段として一般に用ゐらるゝもの、中、音樂と動作遊戯とに於て、殊に此の後の方の注意の必要が多いと思はるのである。